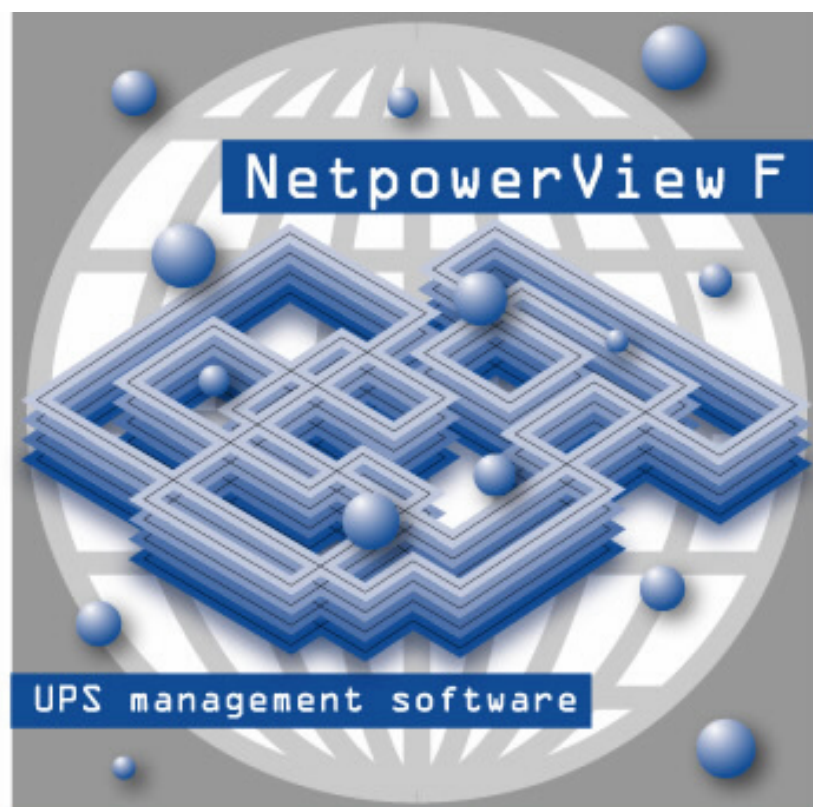


ネットワーク対応 UPS 管理/モニタプログラム



NetpowerView F[®] V5.3

インストール・ガイド

WindowsNT4.0/2000/XP/Server2003
Windows 98/Me

INR-HF51757

目次

第1章 NetpowerView F 製品概要	3
第2章 ハードウェア	3
第3章 ソフトウェア	4
第4章 インストール	6
4.1. UPS管理ソフト	6
4.2. RCCMD	14
4.3. 再インストール	19
第5章 アンインストール	20
5.1. NetpowerView F	20
5.2. RCCMD	22
第6章 その他	24
6.1. 富士通製 ServerWizard でインストールする場合の注意事項	24
6.2. 富士通製 ServerStart でインストールする場合の注意事項	25

商標

NetpowerView Fは富士電機(株)の登録商標です。その他すべての登録商標、商品名、会社名は各企業の所有物であり、情報の記載のみを目的として使用されます。

第1章 NetpowerView F 製品概要

NetpowerView F には以下のような特徴があります。

UPS 管理プログラム

Windows NT4.0/2000/XP/Server2003 上で実行されるサービスプログラムです。
シリアルポートを介して UPS と通信を行い、UPS の状態監視や各種データの取得、ロギング、コマンドの発行等を行います。また、接続されている UPS の型式名や使用するシリアルポート番号、シャットダウン動作、イベント/ジョブなど、さまざまな設定も行います。UPS 管理プログラムは、UPS の管理を行うサーバに必ずインストールします。

UPS モニタプログラム

UPS 管理プログラムが収集した情報の表示、バッテリーテスト、スケジューリング設定などを行うためのユーザインターフェースプログラムです。UPS 管理プログラムが導入されているサーバにインストールして UPS 管理プログラムに接続(ローカル接続)することや、または別マシンにインストールして、ネットワーク経由で接続(ネットワーク接続)し、UPS のモニタが行えます。

RCCMD (Remote Console Command)

RCCMD は、同一ネットワーク(TCP/IP)上に存在する複数のサーバをシャットダウンさせることが可能です。

システム構成として、UPS から複数のサーバに電源が供給され、これらのサーバが同一ネットワーク上に存在する場合を想定します。これらのサーバのうちの 1 台(マスタサーバ)に UPS 管理プログラムをインストールし、他のサーバ(スレーブサーバ)に RCCMD をインストールします。停電発生時、UPS を制御しているマスタサーバは、他のスレーブサーバにネットワーク(TCP/IP)経由でシャットダウン指令(RCCMD コマンド)を送ります。スレーブサーバは RCCMD コマンド受信にて、OS をシャットダウンします。

第2章 ハードウェア

NetpowerView F を使用するには、以下のハードウェアが必要になります。

高機能無停電電源装置(UPS): NetpowerProtect シリーズ

NetpowerProtect 専用接続ケーブル(FIFA / WS9)

IBM PC-AT 互換機 (Pentium 200MHz 以上)

RS-232C シリアルポート

ハードディスクの容量: 100MB 以上

メモリ: 64MB 以上

第3章 ソフトウェア

1. オペレーティングシステム

NetpowerView Fは以下のオペレーティングシステムに対応しています。

UPS 管理プログラム: Windows NT4.0SP5 以上

Windows 2000 (SP 未適用にて動作保証済みです。SP3 で動作保証済みです。)

Windows XP (SP 未適用にて動作保証済みです。SP1a で動作保証済みです。)

Windows Server 2003 (SP 未適用にて動作保証済みです。)

UPS モニタプログラム: Windows 98/Me

Windows NT4.0SP5 以上

Windows 2000 (SP 未適用にて動作保証済みです。 SP3 で動作保証済みです。)

Windows XP (SP 未適用にて動作保証済みです。SP1a で動作保証済みです。)

Windows Server 2003 (SP 未適用にて動作保証済みです。)

RCCMD: Windows 98/Me

Windows NT4.0SP5 以上

Windows 2000 (SP 未適用にて動作保証済みです。 SP3 で動作保証済みです。)

Windows XP (SP 未適用にて動作保証済みです。SP1a で動作保証済みです。)

Windows Server 2003 (SP 未適用にて動作保証済みです。)

2. 推奨画面サイズ 1024 × 768 ピクセル

3. ネットワークプロトコル

以下のネットワークプロトコルが必要です。

TCP / IP

4. サービス

UPS 管理プログラム(UPSMAN サービス)を動作させるためには、2つのサービスが必要です。

Server

Event Log

Workstation

UPS 管理プログラムでSNMPエージェント機能を使用する場合は、以下のサービスが必要です。

SNMP Service

UPS 管理プログラムでネットワーク上のコンピュータにメッセージを送信する場合は、以下のサービ

スが必要です。

Messenger Service

第4章 インストール

4.1. UPS 管理ソフト

1. インストールの前に、現在、動作させているアプリケーションをすべて終了させて下さい。
NetpowerView F の CD-ROM をセットします。しばらくすると自動再生され、[設定言語の選択] ダイアログが表示されます。インストールで使用する言語を選択し、[OK]をクリックします。
- 注1) NetpowerView F がすでにインストールされている場合は、一度アンインストールしてからインストールして下さい。アンインストールの方法は“5.1 NetpowerView F”を参照して下さい。
- 注2) 自動再生されない場合には“winsetup¥setupups.exe”を実行して下さい。
- 注3) インストール時に言語を選択することが可能ですが、現状は日本語以外の言語に対応しておりません。他の言語を選択しないよう、ご注意ください。

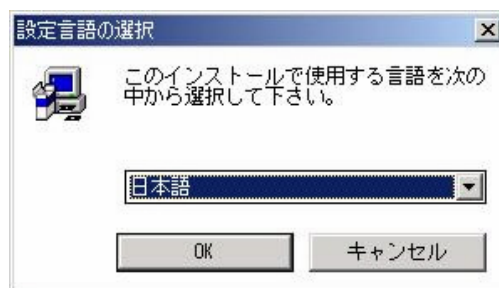


図 1 言語の選択

2. [情報の入力] ダイアログが表示されます。ライセンスキーを入力し[次へ(N)]をクリックします。

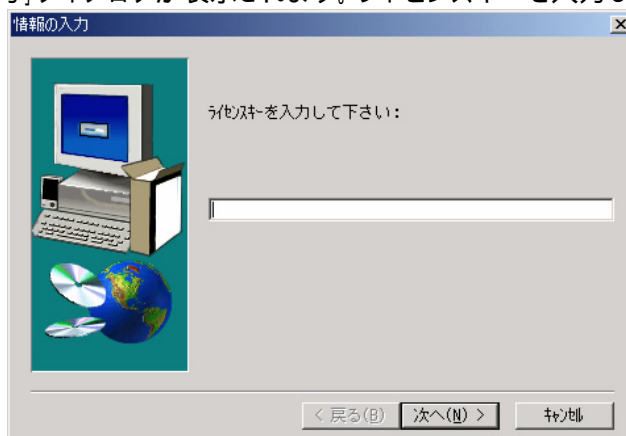


図 2 ライセンスキー入力

- 注1) UPS 管理ソフトをインストールする場合は CD-ROM ケースの裏面に書かれている「UPS 管理ソフトライセンスキー」を入力して下さい。キーコードの文字は数字のゼロと英語のオーを区別するためにオーの上に横棒を引いてあります。
また、英語(小文字)のエルは使用していませんので、1は必ず数字の1を表します。
RCCMD をインストールする場合は“4.2RCCMD”を参照してください。
- 注2) 正確に大文字、小文字を区別して入力して下さい。

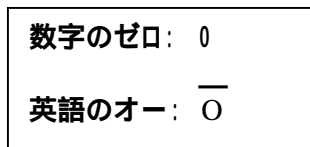


図 3 CD ROM ケース裏面のライセンスキーに使用している文字

3. [情報一覧]ダイアログが表示されます。内容を確認の上[次へ(N)]をクリックします。



図 4 情報一覧

4. [製品ライセンス契約]ダイアログが表示されます。契約内容に同意する場合は、[はい(Y)]をクリックします。

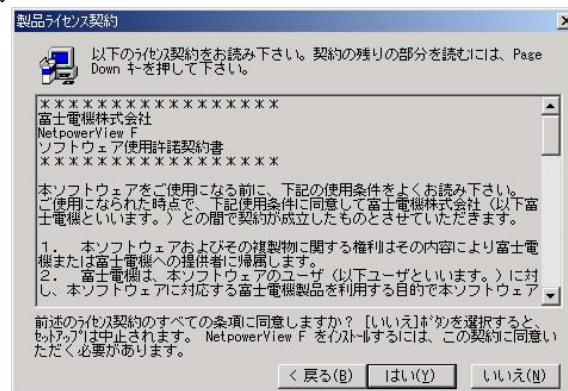


図 5 製品ライセンス契約

5. [NetpowerView F のタイトル] ダイアログが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。

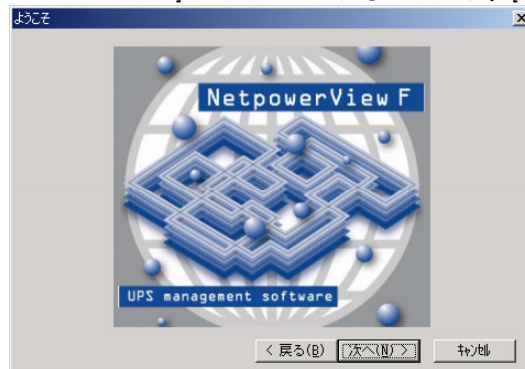


図 6 タイトル画面

6. [コンポーネントの選択] ダイアログが表示されます。インストールするコンポーネントを選択し、[次へ(N)] をクリックします。



図 7 コンポーネントの選択

UPS 管理プログラム	: UPS と RS-232C で接続して監視・制御を行います。
UPS モニタプログラム	: UPS の運転状態をモニタします。
Systemwalker 連携	: 富士通製 Systemwalker と連携し、UPS に対して制御を行います。
MS Word97 形式ヘルプファイル	: Microsoft 社製 Word97 形式のヘルプファイルです。
PDF ヘルプファイル	: PDF ファイル形式のヘルプファイルです。

注1) Systemwalker 連携は UPS 管理プログラムを使用して UPS を制御します。インストールするコンポーネントとして選択する場合は、必ず UPS 管理プログラムも選択して下さい。

注2) UPS モニタプログラムのみをインストールする場合には、UPS 管理プログラムのチェックをはずして下さい。

7. UPS 管理プログラムの E-Mail サービスについて、使用確認のメッセージボックスが表示されます。使用する場合は[はい(Y)]、使用しない場合は[いいえ(N)]をクリックします。
注) E-Mail サービスは、インストール終了後にも設定が可能です。

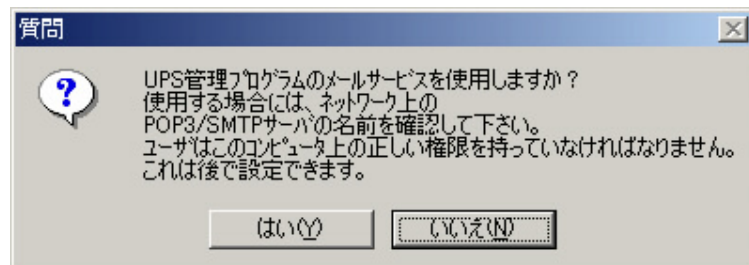


図 8 E-Mail メールサービスの使用

8. [インストール先の選択]ダイアログが表示されます。
デフォルトでは “C:\Program Files\UPS”となっています。インストール先を変更する場合には、[参照(R)]ボタンをクリックして下さい。決定したら[次へ(N)]をクリックします。

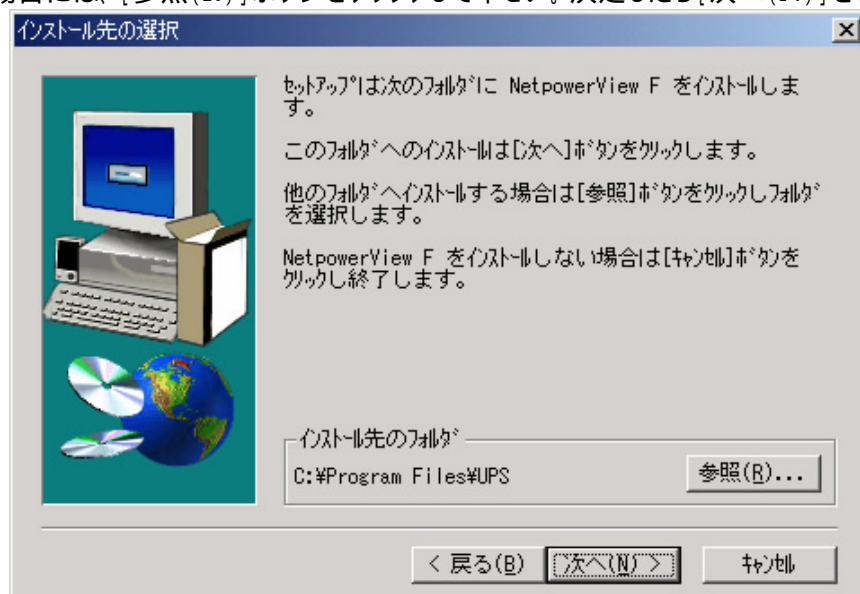


図 9 NetpowerView Fのインストール先

注) フォルダ名は半角64文字まで指定できます。

9. [プログラムフォルダの選択]ダイアログが表示されます。そのまま[次へ(N)]をクリックすることで、NetpowerView Fのインストールが開始されます。

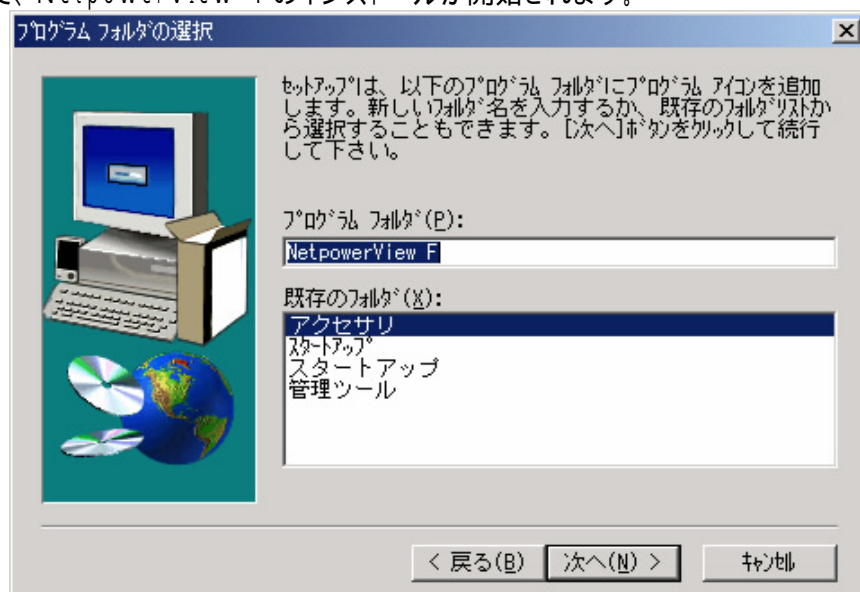


図 10 プログラムフォルダの選択

10. インストール終了後、NetpowerProtect が接続されている通信ポートと UPS 型式を自動検出するためのメッセージボックスが表示されます。自動検出する場合には[はい(Y)]、自動検出しない場合には[いいえ(N)]をクリックします。

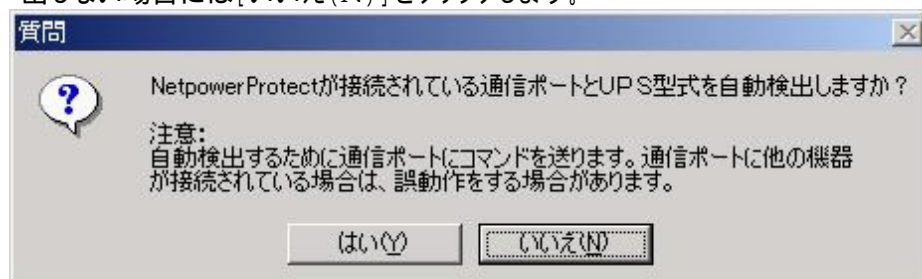


図 11 UPS 型式の自動検出

11. インストール終了後、DOS プロンプト画面が表示され、[UPS 管理プログラムの設定] ダイアログが表示されます。ライセンスキーの部分には、手順2で入力したキーコードが表示されます。UPS の型式、COM ポートを選択して[OK]をクリックします。設定の詳細はユーザーズ・ガイドを参照して下さい。

UPS 管理プログラムの設定はインストール終了後でも可能です。

図 12 UPS 管理プログラム設定画面

設定画面で選択可能な UPS 型式を以下に示します。
 現状では、対応状況が「」の UPS に対応しています。
 「×」と表示されている型式は未対応ですので、選択しないで下さい。

表 1 UPS 型式一覧

UPS型式	対応状況	UPS 型式	対応状況
M-SPS005		NetpowerProtect 1000VA	×
M-SPS007		FUJI M-UPS010J	×
M-SPS014		FUJI M-UPS015J	×
M-SPS030		FUJI M-UPS020J	×
M-SPS030-200		FUJI M-UPS030J	×
PGSUP501		FUJI M-UPS050J	×
PGSUP701		FUJI M-UPS075J	×
PGSUP141		FUJI M-UPS0100J	×
PGSUP301		FUJI 8029E	×
PG - R1UP701		FUJI 8059E	×
PG - R1UP141		FUJI 8069E	×
PG - R1UP301		FUJI 8079E	×
PG - R1UP302		No UPS model defined	×
NetpowerProtect 500VA		CS 111 SNMP Adapter NT	×
NetpowerProtect 700VA		PowerLAN 600 115V	×
NetpowerProtect 1400VA			
NetpowerProtect 3000VA			
NetpowerProtect 3000VA-200			

12. UPS 管理プログラムの起動を確認するメッセージボックスが表示されます。
 UPS 管理プログラムのサービスを開始する場合は、[OK]をクリックして下さい。

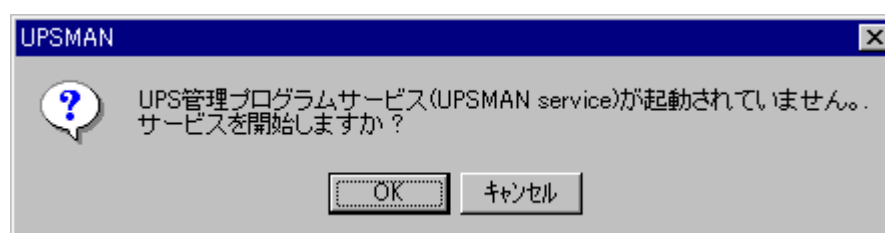


図 13 Upsman サービスの起動

注1) UPS 管理プログラムのサービスの設定はインストール後に[コントロールパネル]の
 [サービス]からでも可能です。

注2) 手順7の E-Mail サービスの確認メッセージボックスで[はい(Y)]をクリックした場合は、この後に[E-Mail 設定]ダイアログが表示されます。送信者のメールアドレスとメールサーバ名(IPアドレスまたはホスト名)を入力して「OK」ボタンを押してください。また、SMTP 認証を使用している場合には、ユーザーID、パスワードを設定してください。

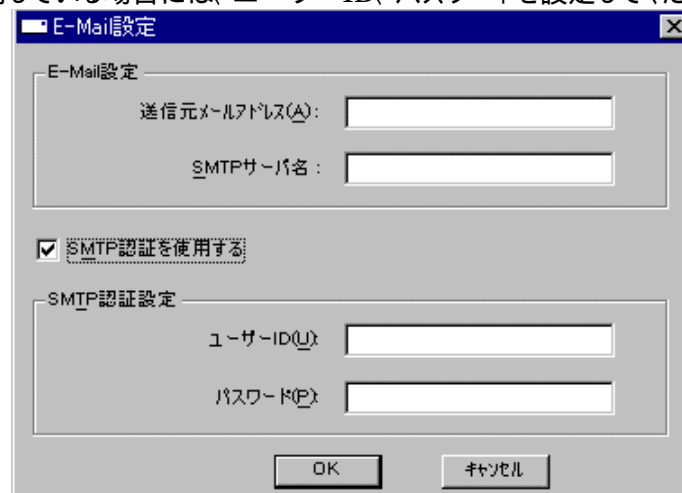


図 14 E - Mail設定

13. セットアップ完了のダイアログが表示されます。

“readme.txt”をすぐに読まない場合はチェックをクリアし、[完了]をクリックします。

これで、NetpowerView F のインストールは完了です。



図 15 セットアップ完了

注1) 手順6の[コンポーネントの選択]ダイアログで“Systemwalker 連携”を選択した場合はインストール完了後、パスの設定を有効にするためにサーバの再起動が必要となります。

注2) Windows98/Me で、UPS モニタプログラムのみをインストールする場合、インストール終了手前で、「MS-DOS プロンプト」画面が表示されます。画面を閉じてインストールを継続してください。

4.2. RCCMD

1. インストールの前に、現在、動作させているアプリケーションをすべて終了させて下さい。
NetpowerView F の CD-ROM をセットします。しばらくすると自動再生されて[設定言語の選択]ダイアログが表示されます。インストールで使用する言語を選択し、[OK]をクリックします。

注1) RCCMD がすでにインストールされている場合は、一度アンインストールをしてからインストールを行って下さい。アンインストールの方法は“5.2 RCCMD”を参照して下さい。

注2) 自動再生されない場合には“winsetup¥setupups.exe”を実行して下さい。

注3) インストール時に言語を選択することが可能ですが、現状は日本語以外の言語に対応しておりません。他の言語を選択しないよう、ご注意ください。

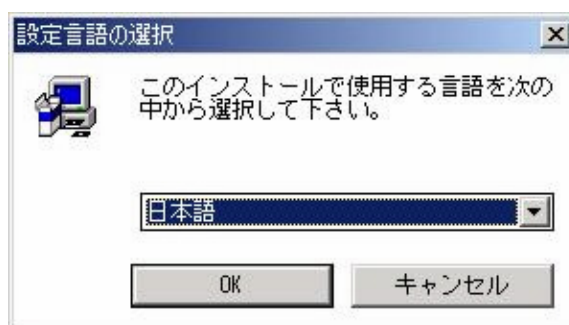


図 16 言語の選択

2. [情報の入力]ダイアログが表示されます。ライセンスキーを入力し[次へ(N)]をクリックします。

注1) CD-ROM ケースの裏面に書かれている「RCCMD ライセンスキー」を入力して下さい。

RCCMDは同一ネットワーク上のサーバ1台毎に、異なるキーコードが必要になります。

注2) 正確に大文字、小文字を区別して入力して下さい。CD-ROM ケースに使用している文字は、“4.1 UPS管理ソフト”を参照して下さい。



図 17 ライセンスキー

3. [情報一覧]ダイアログが表示されます。内容を確認し、[次へ(N)]をクリックします。



図 18 情報一覧

4. [製品ライセンス契約]ダイアログが表示されます。
契約内容に同意する場合は[はい(Y)]をクリックします。

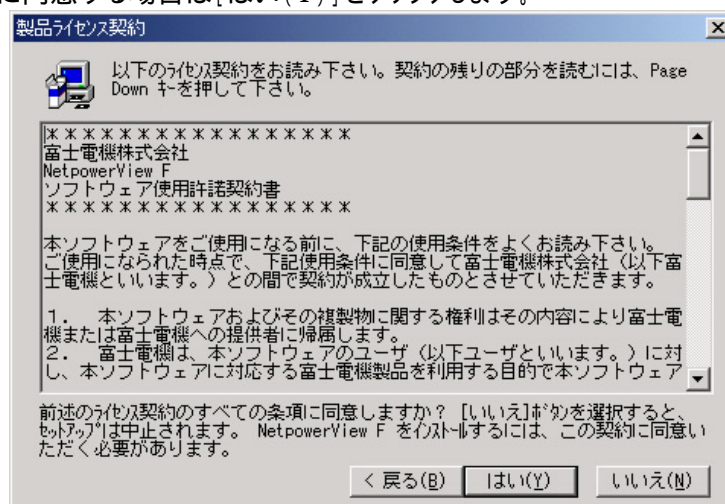


図 19 ライセンス契約

5. [NetpowerView F のタイトル]ダイアログが表示されます。[次へ(N)]をクリックします。

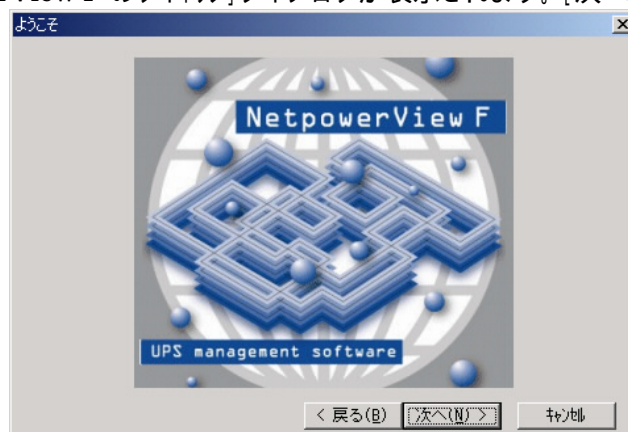


図 20 タイトル画面

6. [コンポーネントの選択]ダイアログが表示されます。

インストールするコンポーネントを選択し、[次へ(N)]をクリックします。



図 21 コンポーネントの選択

7. インストール完了後、RCCMD Wizard 画面が表示され、RCCMD に関する設定を行います。

その際、[キャンセル]をクリックすると、最初からインストール作業していただくことになりますので、[OK]をクリックしてください。

注) 設定内容の詳細については、ユーザズ・ガイドを参照して下さい。



図 22 RCCMDセットアップウィザード

8. [インストール先の選択]ダイアログが表示されます。

デフォルトでは “C:\RCCMD”となっています。インストール先を変更する場合には、[参照(R)]ボタンをクリックして下さい。決定したら[次へ(N)]をクリックします。



図 23 インストール先

注) フォルダ名は半角64文字まで指定できます。

9. [プログラムフォルダの選択]ダイアログが表示されます。そのまま[次へ(N)]をクリックすることで、RCCMD のインストールが開始されます。

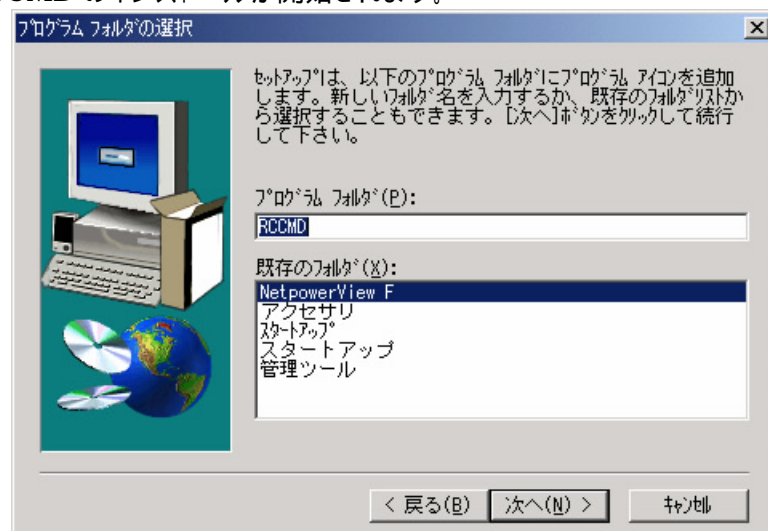


図 24 プログラムフォルダの選択

10. インストール終了後、「RCCMDの設定」画面が表示されます。そのまま[次へ(N)]をクリックします。

注) 手順9と同様、[キャンセル]ボタンをクリックすると、今までのインストール作業が無効になります。もし、「キャンセル」ボタンをクリックしてしまった場合、お手数ですが、もう一度、アンインストールから作業をしていただくことになりますので注意して下さい。

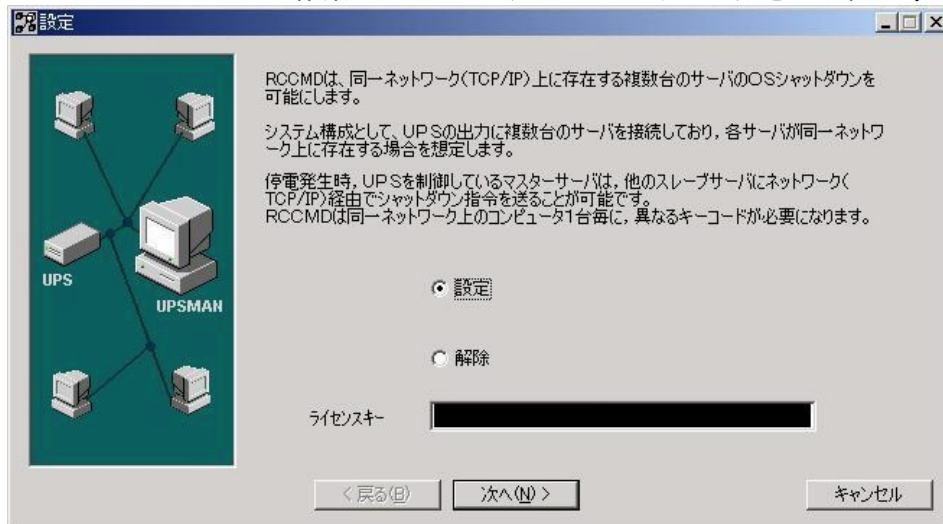


図 25 RCCMD の設定

11. 「シャットダウンを許可するマスタサーバ」画面が表示されます。特定のサーバからのシャットダウン信号のみ許可する場合に設定します。

また、RCCMDで使用するポート番号の変更も可能です。詳細は、ユーザズ・ガイドを参照して下さい。

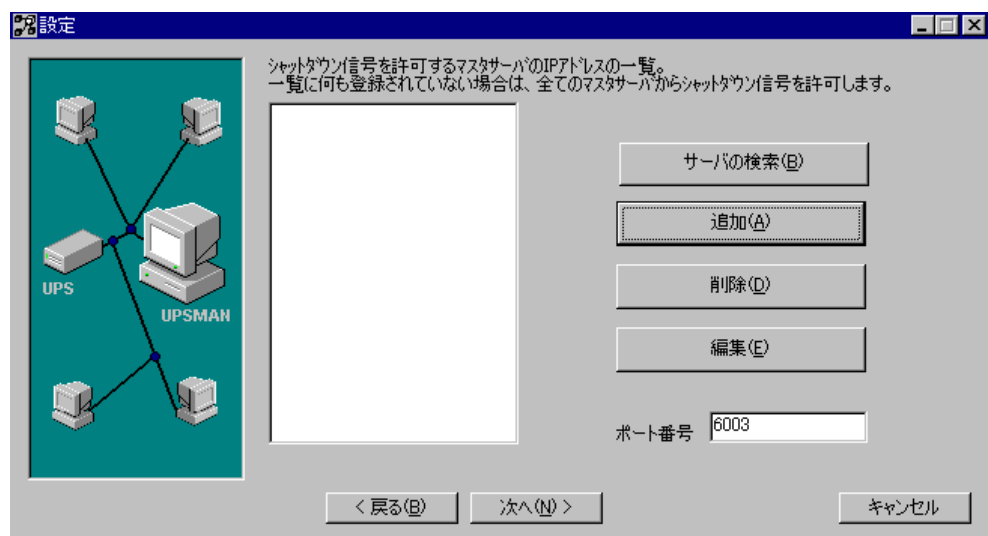


図 26 シャットダウンを許可するマスタサーバ

12. [次へ(N)]をクリックすると「ログ・ファイル設定」、「バッチファイル設定」画面が表示されます。
RCCMD受信時に起動するバッチファイルを設定、また RCCMD のログ・ファイルのサイズを設定します。 詳細は、ユーザズ・ガイドを参照して下さい。

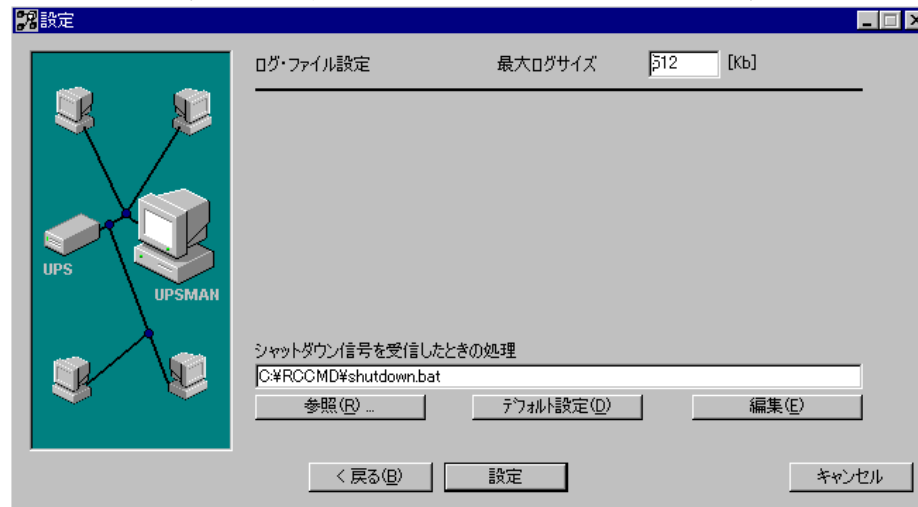


図 27 バッチファイル設定

13. セットアップ完了のダイアログが表示されます。
“readme.txt”をすぐに読まない場合は チェックをクリアし、[完了]をクリックします。
これで、RCCMD のインストールは完了です。



図 28 セットアップの終了

4.3. 再インストール

再インストールをする場合は、一度アンインストールをしてからインストールして下さい。
上書きインストールはできません。

第5章 アンインストール

5.1. NetpowerView F

1. [スタート] [プログラム] [NetpowerView F] [アンインストール NetpowerView F]または、[コントロールパネル] [アプリケーションの追加と削除]から[NetpowerView F 変更 / 削除]をクリックします。

2. アンインストールの開始を確認するダイアログが表示されます。[はい(Y)]をクリックします。

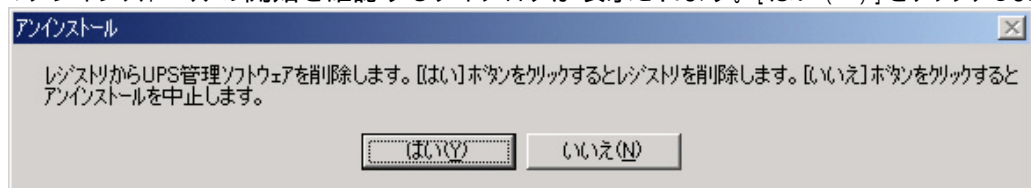


図 29 アンインストール

3. [ファイル削除の確認]ダイアログが表示されます。[はい(Y)]をクリックします。

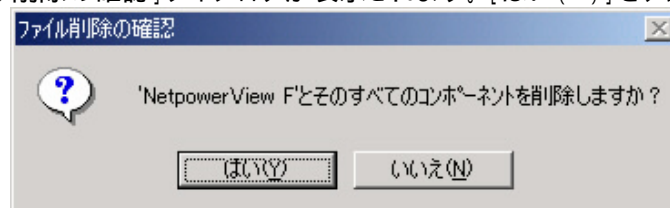


図 30 ファイル削除

注1) [ファイル削除の確認]ダイアログで[はい(Y)]をクリックした後に、[共有ファイルの削除]を確認するメッセージボックスが表示される場合があります。

ファイル名が“Qscrnt.dll”の場合は[はい(Y)]をクリックして削除して下さい。

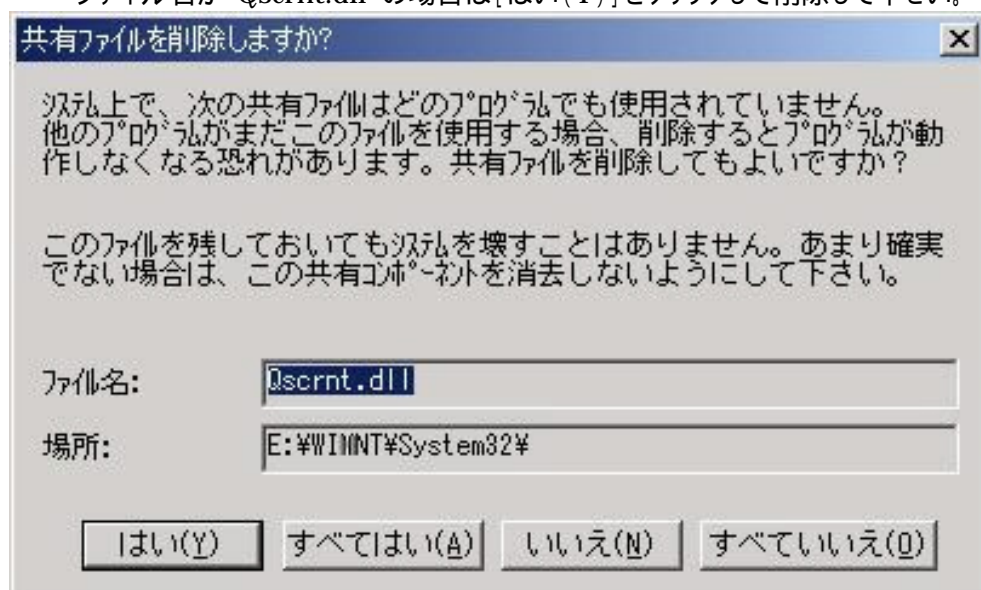


図 31 共有ファイルの削除

注2) アンインストール完了後、いくつかのファイルが残ることがあります。 [詳細]をクリックして、内容を確認し、ファイルを削除して下さい。

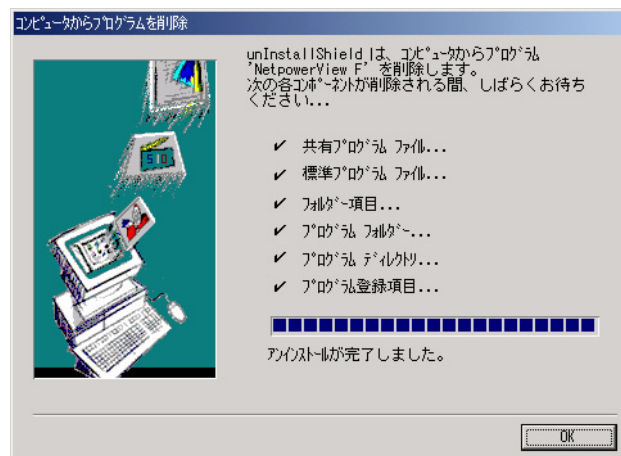


図 32 アンインストール完了

注3) Windows98/Me で、UPS モニタプログラムのみをインストールした場合、アンインストール終了手前で、「MS-DOS プロンプト」画面が表示されます。画面を閉じてアンインストールを継続してください

5.2. RCCMD

1. [スタート] [プログラム] [RCCMD] [アンインストール RCCMD]または、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]から[RCCMD 変更 / 削除]をクリックします。

2. アンインストールの開始を確認するダイアログが表示されます。[はい(Y)]をクリックします。

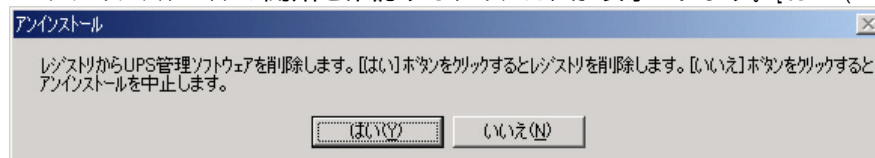


図 33 アンインストール

3. [ファイル削除の確認]ダイアログが表示されます。[はい(Y)]をクリックします。

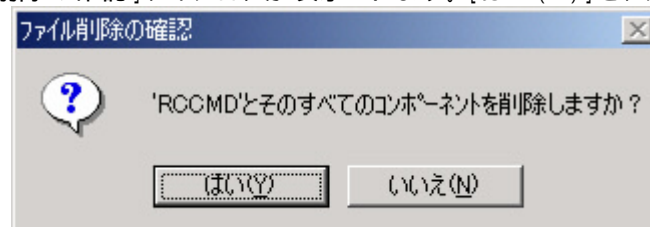


図 34 ファイル削除

注1) [ファイル削除の確認]ダイアログで[はい(Y)]をクリックした後に、[共有ファイルの削除]の確認メッセージボックスが表示される場合があります。ファイル名が“Qscrnt.dll”の場合は[はい(Y)]をクリックして削除して下さい。

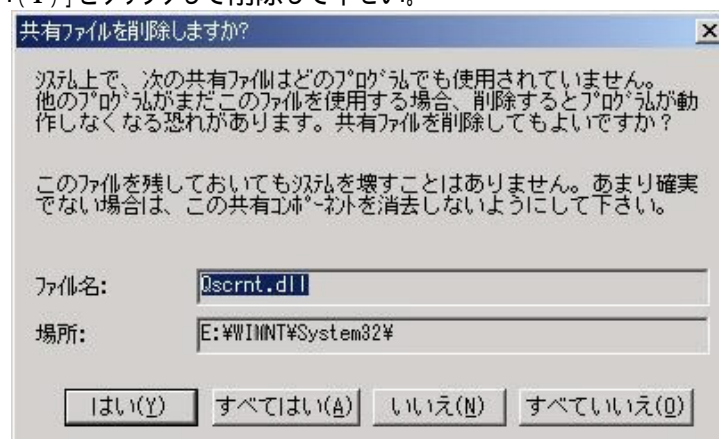


図 35 共有ファイルの削除

注2) アンインストール完了後、いくつかのファイルが残ることがあります。[詳細]をクリックして、内容を確認し、ファイルを削除して下さい。

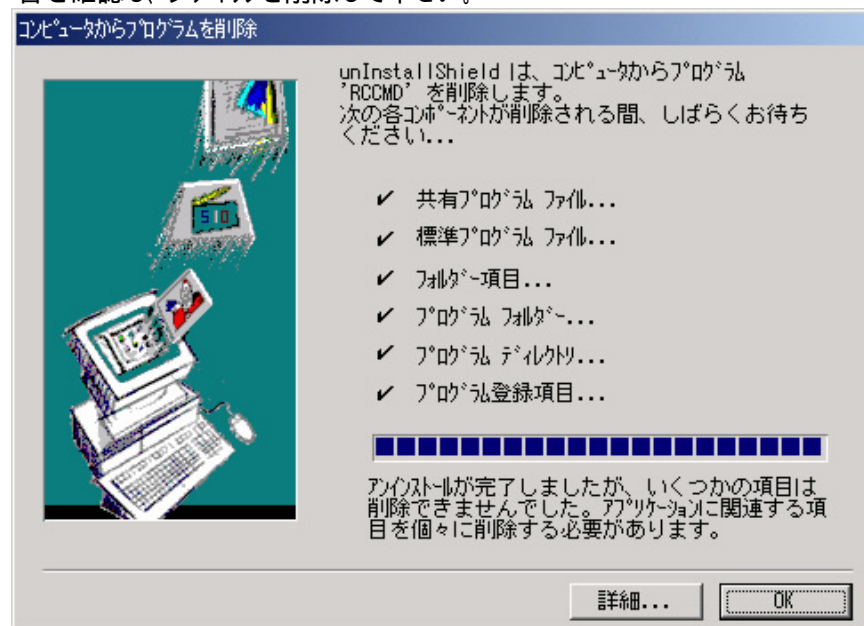


図 36 アンインストール完了

第6章 その他

6.1. 富士通製 ServerWizard でインストールする場合の注意事項

NetpowerView F をインストールできる富士通製 ServerWizard を使用する場合、以下の注意事項があります。

1. 本ソフトウェアをインストールするために「アプリケーションの設定」画面の「サーバアプリケーション」にて「NetpowerView F」をチェックします。

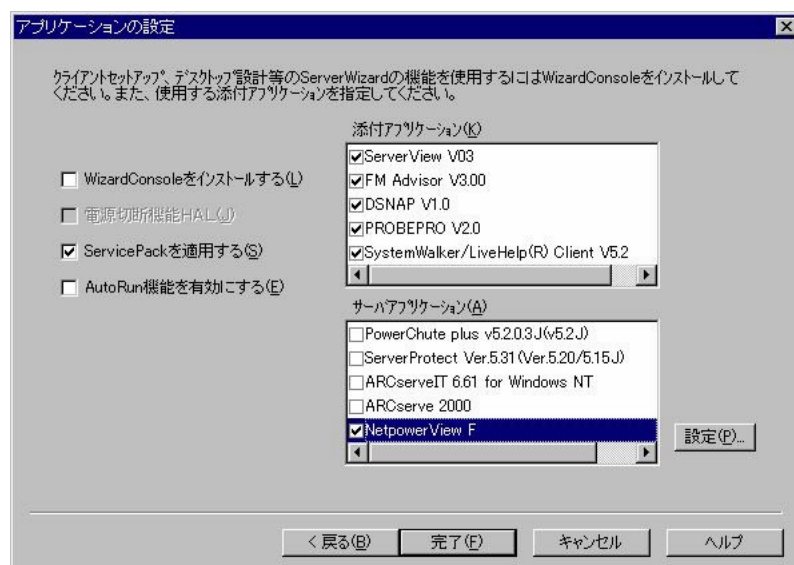


図 37 使用する添付アプリケーションの指定

2. 「NetpowerView F」の設定において、「UPSの設定」の「UPSモデル」に富士通(株)UPS型名が表示されない場合があります。この場合は、下記の対応表に従い設定してください。

表 2 UPS型式対応表

富士通(株)UPS型名	UPSモデル
PGSUP501	M-SPS005
PGSUP701	M-SPS007
PGSUP141	M-SPS014
PGSUP301	M-SPS030
PG - R1UP141	M-SPS014
PG - R1UP301	M-SPS030




図 38 NetpowerView Fのセットアップ情報

3. ServerWizard が UPS 管理プログラム (UPSMAN サービス) をインストールする際、スタートアップの種類を「手動」とします。従って、サーバを再起動すると UPSMAN が自動的に起動しません。手動で UPSMAN を起動して下さい。また、コントロールパネルにてスタートアップの種類を「自動」として下さい。

6.2. 富士通製 ServerStart でインストールする場合の注意事項

1. 「NetpowerView F」の設定において、「UPSの設定」の「UPSモデル」に富士通(株)UPS型名が表示されない場合があります。この場合は“6.1富士通製 ServerWizard でインストールする場合の注意事項” 表2の対応表に従い設定して下さい。
2. ServerStart が UPS 管理プログラム (UPSMAN サービス) をインストールする際、スタートアップの種類を「手動」とします。従って、サーバを再起動すると UPSMAN が自動的に起動しません。手動で UPSMAN を起動して下さい。また、コントロールパネルにてスタートアップの種類を「自動」として下さい。